

お元気ですか

2023年3月 200号



発行所 (福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター
〒231-8482 横浜市中区桜木町1丁目1番地
横浜市健康福祉総合センター9階
☎045-681-1211(代表) ☎045-680-1550
🌐<https://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/>
編集発行人 内嶋 順一

横浜市 障害者支援センター

🔍 検索

障害者支援センターの
最新情報、お知らせ、
お元気ですかバックナンバーなど
こちらからご覧になれます



障害児地域訓練会 50周年記念!

感謝状

地域訓練会様

この横浜に訓練会が誕生して五十年
訓練会は子どもたちの成長を
見守る場 親子の交流の場 学びの場
支え合いの場です
協力者 支援者 行政とともに永年に
わたり横浜の福祉向上に寄与された
訓練会の活動の功績をたたえ、ここから
の感謝の意を表します

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター職員一同

「障害児地域訓練会」とは…?

幼児から高校生までの様々な障害のある子どもたちが、協力者(ボランティア)の支援を得ながら保育・絵画・体操などの活動を行っている場所です。同時に、家族が仲間づくりをする貴重な場であり、地域の理解を深めていく場でもあります。

障害児の通園施設もほとんどなく、幼稚園や保育園での受け入れも十分ではない時代に、障害のある子どもの親たち数人が「子どもたちが一緒に遊べる場を、親同士悩みを打ち明け、励まし合える場をつくろう」と立ち上がって、活動を始めました。そんな「障害児地域訓練会」の歴史は1972年(昭和47年)から始まり、今年度で50周年を迎えます。今回は、半世紀を通して活動を続けてきた訓練会の中で、2つの会の代表者を務めるお二人にインタビューをさせていただきました。

「障害児地域訓練会50周年記念」特集 2ページに続く→

森さん(左)と細田さん(右)
磯子区と鶴見区のコーディネーターと

ゴールでプレゼントをもらう



さつき会
50周年記念イベント



ウォークラリーのクイズの様子



ひよこ会
フォトスタンプラリー



お題と同じ風景の写真を撮り



今年度50周年を迎える訓練会 (さつき会、ひよこ会、つくしんぼ会、さくらんぼ会)のなかで、周年イベントを企画したさつき会代表の森さんとひよこ会代表の細田さんより、イベントのこと、そしてこれからの訓練会に願う事等をお話いただきました。

さつき会は、イベントとして家族撮影会とポイント地点でクイズに答えるウォークラリーを企画し、家族の笑顔があふれる内容となりました。また、ボールペンとクリアファイル・広報紙特別号を作成して、活動を支えてくださっている方々に配布したとのこと。一方で、ひよこ会は周年記念として記念誌とボールペンを作成し、特別な場所に行くのではなく、普段の活動で歩いている散歩コースでお題として決められた写真を撮るフォトスタンプラリーをクリスマス会を兼ねて実施しました。

森さんはこれからの訓練会活動について「時代や環境が変わっても、親と子・仲間・ボランティア・協力者とのつながりは大切にしていきたい。自分がそうであったように、訓練会は母にとって心のよりどころであってほしい。」とご自身の経験から思いを語っていただきました。細田さんは「若い世代にあった活動に形を変えてよいので、つながりを大切に、これからも‘地域とともに生きる’の言葉のとおり、誰でも受け入れるあたたかい会であってほしい」と次の世代に向けたエールを送っていただきました。

エスネット S-net横浜 セイフティーネットプロジェクト横浜

馬場小学校地域防災拠点(鶴見区) 運営委員会で出前講座を行いました!



雑貨工房みらい 名古屋所長(一番左)

11月17日(木)、馬場地域ケアプラザにて、地域防災拠点での「知的障害や自閉症のある人への支援」をテーマに、『出前講座』を行いました。これは地域防災拠点を運営する地域の方から、障害のある人への支援について学びたいとの要望を受けて開催したものです。当日は区内の障害者団体の方より、障害特性や災害用コミュニケーションボード、バンダナ(※)を活用した支援方法をお伝えしました。その後、知的障害があるご本人から、配慮してほしいこと(伝える時には、短い言葉を使ってほしい、複数の依頼を同時にしないでほしい等)のお話がありました。

当日、ご協力いただいた雑貨工房みらいの名古屋所長からは「地域の方たちに障害のある人たちのことを知っていただく機会になり、やってよかった」と感想をいただきました。皆さんも、『出前講座』をぜひご活用ください。



お話するエザワさん(左)と
支援者の斎藤さん(右)

緑色

支援ができる人



黄色

配慮が必要な人

※災害時、障害等があり配慮が必要な人が支援を受けられるよう、決まった色のバンダナ等を身につける運動



セイフティーネットプロジェクト横浜

市内の障害児者団体・機関で構成。障害者や家族が自分たちのできることから取り組むことを大切にしながら、障害理解を進めていこうと様々な活動に取り組んでいます。詳しくはQRコードよりHP参照。



ぼくのわたしのすきなこと

戸塚区の第3しもごうに通う大川さんは、横浜を拠点に活動するサッカーチーム「横浜FC」のサポーターです。

きっかけは、10年ほど前に招待チケットをもらって横浜FCの試合を観に行ったこと。その後、元日本代表の中村俊輔選手が所属していたことから、さらに横浜FCが好きになったそうです。以来、何度も会場へ足を運んでおられます。中村選手が昨季で引退してしまい、寂しいとお話されていました。

コロナ禍になり回数が減っていましたが、今年度は8回も観戦に行くことができたそうです。いつもは、横浜FCのホームグラウンドである三ツ沢球技場や日産スタジアムに行っていますが、いつか国立競技場で試合を観ることが大川さんの夢とのこと。

サッカー観戦で楽しいことは、サポーター同士の繋がりができること。元々、大川さんは人見知りな性格でしたが、何度も会場へ足を運ぶうちに一緒に応援

第3しもごう(戸塚区) 大川 かつえさん

する仲間ができたそうです。得意な手芸を生かして、選手の背番号と出身国の国旗柄のお手製ワッペンをサポーター仲間に配ったこともあり、その時皆が喜んでくれたことがとても嬉しかった、とにこやかに話していただきました。

まだコロナが流行っているのでは、今はマスクをしているけれど、マスクなしで観れるようになる日が来ることを楽しみにしています!



ぬいぐるみ用のお手製ユニホーム



ボランティアさん紹介

せや福祉ホーム(瀬谷区) 白川藤子さん/大川親子さん

今回は長年に渡り、せや福祉ホームを支えているボランティアさんの中から、二人を紹介します。

ボランティア歴約32年の白川藤子さん。きっかけは、ボランティア募集の記事を見て「やってみよう」と思われました。今は『香り玉』という香り袋の制作に携わられており、「売り上げが多い時はみんなが喜ぶの。その姿を見るのが嬉しいの」と自分事のように嬉しそうです。

もうお一人は、約26年携わられている大川親子さん。友人から誘われボランティア活動を始められました。当初は自分に何ができるのかと悩まれたが、「ここに来て自分が救われているの。今では誘ってくれたことに感謝しているわ」と嬉しそうです。一時体調を崩し、お休みされていたが、職員から座っているだけでもいいからと懇願され再開されました。「にぎやかに来ているのよ～」と屈託なく笑うその笑顔はとても輝いています。

ボランティアのみなさんは訓練会にもかかわっており、その際に心掛けている事が、「楽しくて良かった

ことをお母さんたちに伝えてあげようね!」ということだそうです。そして「その何倍も幸せをもらっているのよ」との言葉に、目頭が熱くなりました。

長く続くコツを聞いたところ、ボランティアなんて難しく考えないことと言われました。また、いい先輩たちが沢山いて嫌な思いをしたことがなく、職員からも否定されず、自由にさせてもらっているとのこと。自由にやっているというが、周りとうまく連携をとっている姿が印象的でした。途切れることのない暖かなお話し。思わずボランティアをしたくなる気持ちにかられました。



白川さん(左)と大川さん(右)





あゆみ荘だより

お問い合わせ ☎045-941-8383



都筑ふれあいの丘の3施設(横浜あゆみ荘・都筑センター・都筑プール)は『都筑ふれあいの丘まつり』を11月13日(日)に開催いたしました。新型コロナウイルス感染拡大により3年ぶりの開催となりましたが、横浜あゆみ荘では障害のある方の自主製品販売やダンス発表、Ko-seiさんのコンサート、障害のあるお子さんとそのご家族の写真展、無料宿泊券抽選会などを催し大変多くの方にご来場いただき盛況となりました。



ハートメイド通信

お問い合わせ ☎045-681-1131



「HEARTMADE」は、障害者地域作業所等で障害のある人たちが製作している自主製品の統一ブランドです。

このカタログに掲載されている商品は、障害のある人たちが日々心を込めて作りあげたものです。ひとつひとつ丁寧に作られた商品は、クッキー等のお菓子から雑貨、織物、革製品、アクセサリなど300点以上に上ります。個人でのご購入だけでなく、地域や職場のイベント・行事などにぜひご利用ください。



リニューアル

お元気ですか

1978年(昭和53年)の創刊号から45年を経た今号**200号**。より親しみやすいものにリニューアルしました。紙面の変化に歴史を感じつつ…。時代が変わっても、横浜の障害福祉の“今”を届け続けます。

創刊号

●1978年12月(昭和53年)



100号

●1997年9月(平成9年)



200号

●2023年3月(令和5年)



望遠鏡



「お元気ですか」の創刊号が私の手元にある。当時、障害がある人々が自らの手で地域作業所を立ち上げた「空とぶくじら社」代表玉井氏の笑顔に溢れた写真が表紙を飾る。あれから45年、くじらは悠々と空を飛んでいるであろうか。確かに、障害がある人々への福祉施策は充実したかもしれない。しかし、彼らが真に願っていることは、自らの手で大きなくじらを空に飛ばすことではなかったか。そんなくじらが大空を埋め尽くす素晴らしい景色を見られる日が来ることを願ってやまない。

障害者支援センター センター長 内嶋 順一